



学校だより

東京都立府中けやきの森学園
〒183-0003 府中市朝日町 3-14-1
TEL 042-367-2511 FAX 042-369-8476
http://www.fuchu-keyaki-sh.metro.tokyo.jp
令和6年6月28日(金)発行 第4号

ウェルビーイングの実現に向けたキャリア教育

副校長 添田 和久

1学期も残すところ、1か月を切りました。暑い日が続き、プールからは子どもたちの歓声が聞こえています。健康観察への御協力ありがとうございます。

本校では、全ての学部・学年で「キャリア教育」に取り組んでいます。「キャリア教育」とは「児童・生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲、能力や態度を育てる教育」のことを言います。「キャリア発達」は「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」です。発達段階や発達課題が一人一人によって異なるので、学校では児童・生徒一人一人の「キャリア発達」を支援していきます。生活リズムの整え方を身に付けたり、体力を付けたり、自分の意思表示ができたり、支援者の介助を受け入れたりすることも、本人の「キャリア発達」を促す教育活動、すなわち「キャリア教育」となります。

本校の子ども達が、将来、どの学校に進学しても、どこに就労しても、自分の人生を全うできるように、その子その子に合わせて、自分から・自分で取り組もうとする「意欲」「態度」を身に付けることができれば、きっと社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方、ウェルビーイングを実現してくれると考えています。

水泳指導の充実に向けて

保健体育科教科会主任 齊藤 健夫

新型コロナウイルス感染症による行動規制が緩和し、昨年度から本校での水泳指導が再開しました。4年という歳月は、これまでに培った本校のノウハウを根底から見直す良い機会になりました。

私たちは、水泳指導再開2年目を迎えるにあたり、昨年度に両部門の教職員から集めた意見や反省を参考に、安心・安全に水泳指導ができるように、準備を進めました。具体的には、教職員に向けた水泳指導研修や緊急時対応訓練です。

上記の成果を安全な水泳指導に生かし「今日のプール楽しかった。」「もっと泳ぎたい。」という、児童・生徒の言葉と笑顔をお届けできるよう、指導を進めてまいります。

問合せ

御連絡は、下記までお願いいたします。

◇平日（午前8時30分から午後6時まで） **042-367-2511**（学校の代表番号）

水泳学習が始まりました（知的障害教育部門 小学部）

学部主任 松島 宏樹

6月から水泳学習が始まりました。課題に合わせて低学年は4グループ、高学年は3グループに分かれて活動しています。プールに慣れている児童で構成しているグループは、自分で潜ったり、浮いたり、ばた足をしたりして水の中での運動を楽しんでいます。プールに慣れることが課題の児童で構成しているグループは、水をすくったりかけたりして水慣れをし、水につかったり、歩いたりして水の中での運動を楽しんでいます。



学校間交流（知的障害教育部門 小学部）

副学部主任 中井 悠

6月10日（月）、11日（火）に府中第四小学校3年生の児童が来校し、B小2・3年生の児童と学校間交流を行いました。事前に2年生は会場の飾り作り、3年生はプログラム作りなどの準備を進め、交流会に向けて期待を高め、当日を迎えました。

交流会では、2年生はパプリカのダンス、3年生はエイサーの演奏を披露し、練習してきた成果を発表しました。府中第四小学校の児童も観客席からパプリカの曲に合わせて一緒に踊ったり、エイサーの演奏に合わせて手拍子したりして、一緒に楽しむことができました。府中第四小学校の児童による荒馬の演目発表では、力強く跳ねる踊りに、本校児童は「カッコいい。」と感想を述べていました。

最後にパラバルーンの活動を府中第四小学校の児童と一緒にを行い、交流会の始まりでは緊張していた表情もすっかり笑顔になり、児童同士で手を振ったり、挨拶を交わしたりすることができました。楽しい雰囲気の中、交流を深めることができました。12月には高学年が府中第四小学校に行き交流してまいります。



がん教育を通じて～健康教育～（肢体不自由教育部門 中学部）

副学部主任 長田 望

5月30日(木)に肢体不自由教育部門 中学部Aグループの保健の授業において、杏林大学付属病院の吉野浩先生を御招きし、がんに関する授業を行いました。「がん教育」は、令和3年度に必修化されました。授業では、健康教育の一環として、がんの正しい理解と、がん患者や家族などのがん向き合う人々に対する共感的な理解を深めることをとおして、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育です。吉野先生からは、人の身体は細胞でできていて、そこからがん細胞が発生する。細胞の数は37兆個もあり、日々増えつつ消滅していく。そんな細胞が傷ついてがん細胞に変化していくというがん細胞の発生の流れを説明していただきました。

日本では約2人に1人ががんを発症するという話になると、子供たちの表情が少し固くなりましたが、早期発見、早期治療を行えば治る確率が高いという話を受けて安堵の表情を浮かべていました。講話後のグループワークでは、がんにかからないために今後どのような生活をしていけばよいかというテーマで話し合い、生活習慣の乱れはがんを引き起こすきっかけになるので、日頃の生活習慣を見直していこうといった話し合いが繰り広げられていました。また、家族の事ことにも言及し、「たばこを辞めてもらいたい」や、「お酒を飲みすぎている」などといった意見も挙がり、家族にも「がんの怖さ」を伝えたいといった話にもなりました。

今回は、医師から直接話を聞くことによって教員だけが行う授業では学べない貴重な知識を得ることができました。今後も「がん教育」の充実に向けて、引き続き、教職員研修や外部講師の活用などを推進していきたいと考えております。

社会に支えられた学び（知的障害教育部門 中学部）

学部主任 米本 浩二

今年も、昨年度に引き続き京王バス株式会社の協力を得て、路線バス2台を御用意いただき、交通安全教室を実施しました。乗車する際は、バス停に並んで待つこと、順番を守ることを手本を交えて改めて教えていただきました。次に、乗車の際に、前乗りと中央乗りがあることを紹介していただきました。2台のバスを利用して、前乗りは乗車時に愛の手帳を提示すること、中央乗りは乗車時にICカードを機械にタッチし、降車時には愛の手帳を提示して、運転手さんに「どうぞ」と言われてから料金の支払いをすることの説明を受けました。実際に一人ずつ乗車して手順を体験することができ、愛の手帳も提示することができました。降車時に「ありがとうございました。」と伝えたり、お辞儀をして挨拶をしたりすることができ、気持ちよく体験ができました。終わりに、中学部作業班で作製した「はがき」と「メモ帳」、「紙袋」を感謝の言葉を添えて渡すことができ、学部全体でお礼の気持ちを添えることができました。



進路学習事前学習（肢体不自由教育部門 中学部）～ICT教育の推進～

ICT教育推進担当 吉野 航

3年生では、進路学習として事業所見学を行っています。見学先の事業所についてタブレット端末を使って、どんな仕事をしているか、どんな活動があるのかなどを調べてワークシートにまとめました。当日は、タブレット端末を使った調査活動を実際に見学・体験することができました。



野菜くず堆肥ができるまで ～堆肥プロジェクト～

堆肥プロジェクトメンバー 柳 明良

今回は、野菜くず堆肥ができるまでの流れと取り組みを御紹介します。まず材料を集めます。

- 有機物：果物や野菜（給食室）のくず、草、落ち葉など
- 炭素源：枯れた葉、乾燥した草など
- 土：微生物を供給するため
- 水：適度な湿り気を保つため

- ①材料を混ぜ合わせます。（野菜くずは給食室から提供してもらいます）
- ②1日に1回しっかりと混ぜ、水分量を調整しながら発酵させます。
- ③3か月から6か月程度で完成します。

※次回は、野菜くずを運んでいる様子と、混ぜ合わせている様子をお届けいたします。

第25回東京都障害者スポーツ大会

パラスポーツ部顧問 中村 嘉人

駒沢オリンピック公園総合運動場で行われた都内最大の障害者スポーツ大会に、肢体不自由教育部門中学部高等部の生徒がボッチャ部門と陸上部門に出場しました。

5月25日(土)には、ボッチャ部門が実施されました。本校からボッチャ部に所属する2名が出場しました。普段は、チーム戦の大会がメインですが、今回は個人戦ということで、いつも以上に緊張している様子でしたが、自分たちの力を発揮する試合ができました。6月1日(土)には、陸上部門が行われました。中学部3名、高等部3名の計6名がソフトボール投とスラロームの種目に参加しました。練習での自己ベスト更新を目指し、競技に臨むことができました。

教職員のライフ・ワーク・バランスに向けた取組

令和6年3月に、「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」が策定されたことを受け、本校では、年に3回の教育系職員希望者一斉時差勤務を行います。育児などで難しい方を除き、計画的に1時間早く勤務時間をずらすことで、4時には退庁するようにして、家族との時間、自分の時間を充実させる良さを味わうという趣旨で行うものです。第1回目は6月26日に実施し、12名が趣旨に賛同し参加しました。